



2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年2月3日

上場会社名 株式会社セキド 上場取引所 東
 コード番号 9878 URL <http://www.sekido.com/ir/index.php>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 関戸 正実
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員管理部長 (氏名) 弓削 英昭 TEL 03-6300-6335
 四半期報告書提出予定日 2023年2月3日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の連結業績（2022年3月21日～2022年12月20日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	5,029	—	69	△64.5	19	△88.1	△55	—
2022年3月期第3四半期	5,548	—	197	—	162	—	155	—

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 △55百万円 (—%) 2022年3月期第3四半期 141百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	△27.47	—
2022年3月期第3四半期	76.59	48.33

(注) 1. 2023年3月期第1四半期連結会計期間の期首より、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）を適用しており、2023年3月期第3四半期の数値は当該会計基準を適用した後の金額となっております。

2. 2022年3月期第3四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、2022年3月期第3四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	5,440	870	15.9
2022年3月期	4,271	1,025	23.9

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 864百万円 2022年3月期 1,019百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	50.00	50.00
2023年3月期	—	0.00	—		
2023年3月期（予想）				10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無
 2022年3月期期末配当金の内訳 普通配当 10円00銭 特別配当 40円00銭

3. 2023年3月期の連結業績予想（2022年3月21日～2023年3月20日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,766	—	105	△71.7	45	△80.0	△37	—	△18.16

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有
 また、2023年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）を適用しているため、上記の業績予想は当該会計基準等を適用した後の金額となっており、売上高の対前期増減率は記載しておりません。なお、総額売上高（従来の計上方法による売上高）は、8,100百万円（4.8%増）を予想しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 ー社 （社名）、除外 ー社 （社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料 8 ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期3Q	2,040,428株	2022年3月期	2,038,928株
② 期末自己株式数	2023年3月期3Q	3,516株	2022年3月期	3,506株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期3Q	2,036,063株	2022年3月期3Q	2,024,722株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載している業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、〔添付資料〕3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(会計方針の変更)	8
(会計上の見積りの変更)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。なお、第1四半期連結会計期間より、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を適用しております。これに伴い、当第3四半期連結累計期間における売上高の一部を純額表示に変更しております。詳細は、8ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記事項（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」に記載のとおりであります。

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、コロナ禍にあっても経済活動を回していく動きが鮮明となっております。一方、ロシア・ウクライナ戦争、エネルギー価格高騰など、先行き不透明な状況が続く中、米国の金融政策を背景に、急激に円安が進んだ影響で、物価の上昇が個人消費の回復に影を落とす展開となっております。

このような環境下、当社グループは、主力事業の店舗運営事業と美容事業による新たな成長戦略に取り組んでおります。

店舗運営事業（ファッション事業）においては、『GINZA LoveLove』店舗、新業態の韓国コスメ『&choa!』店舗は取り組んでいる施策を徹底することで順調に売上高を伸ばしております。

美容事業においても、ユーザー目線による情報発信を活用する施策の展開を推進したことで、特にMEDIHEAL公式サイトでの売上が伸長したほか、認知度アップが卸売にも好影響をもたらし、順調に売上を伸ばしております。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高は5,029百万円（総額表示による売上高は前年同期比7.0%増の5,937百万円）となりました。一方で、利益面では、年末年始商戦用の商材を確保する時期に急激な円安の進行とぶつかり、商品原価の高騰、輸送コストや光熱費などの上昇による販売管理費の増加が響き、営業利益は69百万円（前年同期比64.5%減）、経常利益は19百万円（前年同期比88.1%減）となりました。また、繰延税金資産の取り崩しなどにより税金費用を75百万円計上したことで親会社株主に帰属する四半期純損失は55百万円（前年同期は155百万円の親会社株主に帰属する四半期純利益）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

[ファッション事業]

ファッション事業においては、アプリ会員の獲得と中・高価格帯商品の拡充により安定した売上高の確保に努めるとともに、『&choa!』5店舗の出店や集客力のあるSCでの『GINZA LoveLove』と『&choa!』両業態の催事を積極的に実施いたしました。

これらの結果、売上高は2,808百万円（総額表示による売上高は前年同期比3.6%増の3,716百万円）となりましたが、円安の進行と物価高の影響により、セグメント損失は0百万円（前年同期は32百万円のセグメント利益）となりました。

[美容事業]

美容事業においては、新商品投入に加え、販促物の導入によるコンビニエンスストアでの展示アイテムの拡充に注力いたしました。

その結果、売上高は2,129百万円（前年同期比18.8%増）となりましたが、円安による輸入原価の高騰、物流コストや販促コストの増加によりセグメント利益は281百万円（前年同期比21.2%減）となりました。

[賃貸部門]

賃貸部門においては、一部物件の契約終了により、売上高は28百万円（前年同期比17.4%減）、セグメント利益は25百万円（前年同期比1.0%増）となりました。

[その他]

その他の部門では、売上高は138百万円（前年同期比4.4%減）、セグメント利益は5百万円（前年同期比57.5%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産は、総資産は5,440百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,168百万円増加いたしました。これは主に、店舗運営事業の年末・年始商戦に向けた商材確保などで、商品が680百万円増加したこと、美容事業の売上増加などにより売掛金が146百万円増加したこと、これらの増加運転資金に備えた資金調達により現金及び預金が222百万円増加したことなどによるものであります。

当第3四半期連結会計期間末の負債につきましては、負債合計は4,570百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,324百万円増加いたしました。これは主に、在庫の増加に伴う支払手形及び買掛金141百万円の増加、社債200百万円、長・短借入金が合計で947百万円増加したことによるものであります。

当第3四半期連結会計期間末の純資産につきましては、純資産合計は870百万円となり、前連結会計年度末に比べ155百万円減少いたしました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純損失55百万円の計上と利益剰余金の配当101百万円によるものであります。

これらの結果、自己資本比率は15.9%（前連結会計年度末は23.9%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期通期の業績予想につきましては、売上高は順調に推移しているものの、急激な円安の進行による商品原価の高騰やロシア・ウクライナ戦争による影響などがコストの上昇につながり、利益計画については計画を下回る見込みとなりました。なお、詳細につきましては、本日付で開示しております『2023年3月期の通期業績予想の修正に関するお知らせ』をご参照ください。

今後、新たな業績の見込みが判明した場合には、速やかに業績予想の修正を行ってまいります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月20日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	724,470	947,326
売掛金	772,492	919,163
商品	1,526,264	2,206,440
預け金	118,700	152,237
その他	98,253	158,027
貸倒引当金	△26,973	△26,528
流動資産合計	3,213,207	4,356,666
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	83,972	120,388
土地	429,273	429,273
その他(純額)	19,892	54,427
有形固定資産合計	533,138	604,089
無形固定資産		
ソフトウェア	27,078	23,112
無形固定資産合計	27,078	23,112
投資その他の資産		
投資有価証券	91,188	94,680
差入保証金	310,601	317,718
繰延税金資産	86,651	28,569
その他	9,540	15,219
投資その他の資産合計	497,981	456,187
固定資産合計	1,058,197	1,083,389
資産合計	4,271,405	5,440,056

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月20日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月20日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	827,412	968,807
1年内償還予定の社債	—	40,000
短期借入金	1,791,360	2,456,640
1年内返済予定の長期借入金	10,401	78,336
リース債務	5,176	5,066
未払金	198,347	220,914
未払法人税等	48,500	12,328
その他	71,234	82,769
流動負債合計	2,952,432	3,864,862
固定負債		
社債	—	160,000
長期借入金	4,992	219,573
リース債務	5,828	8,120
役員退職慰労引当金	109,800	109,800
退職給付に係る負債	89,002	89,600
資産除去債務	3,288	3,288
長期預り保証金	30,731	29,980
長期未払金	49,598	84,801
固定負債合計	293,240	705,165
負債合計	3,245,673	4,570,027
純資産の部		
株主資本		
資本金	59,178	59,786
資本剰余金	453,576	454,184
利益剰余金	485,601	327,895
自己株式	△5,003	△5,012
株主資本合計	993,351	836,855
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	12,077	15,199
退職給付に係る調整累計額	14,501	12,171
その他の包括利益累計額合計	26,578	27,370
新株予約権	5,801	5,802
純資産合計	1,025,732	870,028
負債純資産合計	4,271,405	5,440,056

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年3月21日 至 2021年12月20日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年3月21日 至 2022年12月20日)
売上高	5,548,338	5,029,487
売上原価	4,136,024	3,359,913
売上総利益	1,412,314	1,669,573
販売費及び一般管理費	1,214,970	1,599,577
営業利益	197,343	69,996
営業外収益		
受取利息	200	65
受取配当金	1,737	2,255
助成金収入	2,499	235
その他	441	1,693
営業外収益合計	4,878	4,249
営業外費用		
支払利息	31,000	33,829
社債利息	—	46
社債発行費	—	2,477
新株予約権発行費	3,922	3,153
為替差損	1,989	11,771
その他	2,920	3,662
営業外費用合計	39,833	54,940
経常利益	162,389	19,305
税金等調整前四半期純利益	162,389	19,305
法人税、住民税及び事業税	7,717	17,528
法人税等調整額	△394	57,711
法人税等合計	7,323	75,239
四半期純利益又は四半期純損失(△)	155,065	△55,934
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	155,065	△55,934

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年3月21日 至 2021年12月20日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年3月21日 至 2022年12月20日)
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	155,065	△55,934
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△12,842	3,122
退職給付に係る調整額	△499	△2,330
その他の包括利益合計	△13,341	791
四半期包括利益	141,724	△55,142
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	141,724	△55,142

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。これによる変更点は以下のとおりです。

(1) 代理人取引

顧客への財またはサービスの提供における当社グループの役割が代理人に該当する取引については、従来、顧客から受け取る対価の総額を収益として認識しておりましたが、当該対価の総額から財またはサービスの仕入先に支払う額を控除した純額で収益を認識する方法に変更しております。

(2) 自社ポイントに係る収益認識

当社グループが顧客への販売の際に付与する自社ポイントについては、付与したポイントを履行義務として識別し、将来の使用見込み及び失効見込みを考慮して算定された独立販売価格を基礎として取引価格の配分を行い、収益を繰り延べる方法で計上しております。

(3) 他社ポイントに係る収益認識

他社が運営するポイント制度に係る当社グループの負担金については、従来、販売費及び一般管理費としておりましたが、第三者のために回収する金額として、当該ポイント負担金を売上高から控除する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しておりますが、当該期首残高に与える影響はありません。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は942,700千円減少し、売上原価は907,663千円減少し、販売費及び一般管理費は37,987千円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ2,949千円増加しております。

なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2021年3月21日 至2021年12月20日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	ファッ ション	美容	貸貸部 門	計			
売上高							
外部顧客への売上高	3,587,781	1,780,942	34,874	5,403,598	144,740	—	5,548,338
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	11,421	—	11,421	—	△11,421	—
計	3,587,781	1,792,363	34,874	5,415,019	144,740	△11,421	5,548,338
セグメント利益	32,933	356,957	24,981	414,872	13,921	△266,404	162,389

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、外商部門等であります。

2. セグメント利益の調整額△266,404千円は、本社経費等の調整額△265,264千円、セグメント間取引消去△1,139千円であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益としております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自2022年3月21日 至2022年12月20日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	ファッ ション	美容	貸貸部 門	計			
売上高							
顧客との契約から生じる収 益	2,808,711	2,053,544	—	4,862,256	138,431	—	5,000,687
その他の収益	—	—	28,800	28,800	—	—	28,800
外部顧客への売上高	2,808,711	2,053,544	28,800	4,891,056	138,431	—	5,029,487
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	76,175	—	76,175	—	△76,175	—
計	2,808,711	2,129,719	28,800	4,967,231	138,431	△76,175	5,029,487
セグメント利益又は損失 (△)	△767	281,158	25,234	305,625	5,921	△292,242	19,305

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、外商部門等であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△292,242千円は、セグメント間取引消去△1,098千円、報告セグメントに帰属しない全社費用△291,143千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の経常利益としております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に變更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間のファッション事業の売上高は941,551千円減少し、セグメント利益は3,114千円増加しております。また、美容事業の売上高は1,149千円減少し、セグメント利益は165千円減少しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。